



研究主題

より良い解を導き出せる子の育成
～少人数における対話的な学びの工夫を通して～

事後研の概要（５・６年）

研究内容 1 ～より良い解を導き出す対話的な学びの工夫

- ② 自他の考えの共通点と相違点を理解させる手立て
 - ・ 付箋を使って共通点と相違点を整理していく。
- ③ 根拠を明確にして、他者の考えに対する自分の考えを表明させる手立て
 - ・ 整理された付箋をもとに根拠を明確にして表明させる。
 - ・ 自分の考えを持てるような発問の工夫

- ２人しかいないのに、自分の意見をたくさん表明することができていた。
- 自分の意見について、理由（根拠）を明確にすることができていた。
- 思いついたことや、疑問に思ったことをすぐに声に出していた。
- 自分の知識や経験を基に話すことができていた。
- 短い発問でもしっかりと理解することができていた。
- 付箋をもとに考えさせ、まとめるまでの時間を保証していた。
- 個から全体に広げる際の付箋は、効率が良く整理しやすい手段だった。
- 付箋の活用は、考えを持つ・比較しやすい・短くまとめやすい、という点で良かった
- タブレットの活用も、自分の考えを表明する手立てになっていた。
- 付箋を読むだけでなく、もっとタブレットを使って説明させて交流した方が良かったのでは。
- 教師の指示がないと深められない。

研究内容 2 ～子ども同士の協議・討議を行うための基礎となる力の育成

- ① 自分の考えをもち、まとめる力
 - ・ ノート・付箋・ICT 機器に思考を表す⇒分類・整理⇒まとめる
- ② 筋道立て発表し、疑問をもって聞く力
 - ・ 結論⇒根拠という流れを意識した発表
 - ・ 話し合い活動では、友達の考えに対して質問や意見を伝える場面を設定する
- ③ 話し合う力
 - ・ 話し合いモデルを使った話し合い活動
- ④ みんなの考えをまとめる力
 - ・ 共通点と相違点を整理させ、そこからより良い解を見つける経験を重ねる

- 風神雷神の比較鑑賞として、対称的な作品を選んだことは良かった。
- 比較させることでくわしく観察していた。
- 人により、感じ方が違う事には気づけていた。
- 話し合いにならなそうなときに、先生がつなぎ、そこから発表することができた。
- 教師の話し合いへの介入がほとんどなく、子ども達の話合いが、子ども本位で進められていた。

その他授業に関わって

- 導入の5分間がスピーディーで無駄がなかった。
- 2人とも指示を理解し、考えたり書き表したりすることができていた。習慣がついている。
- ICTの活用（画像の拡大、1人2台）によって、鋭い視点・気づきが生まれていた。
- 子どもの感想が本時の目標が達成された内容となっていた。
- 着眼点を知らせるともっと視点が広がったのでは。
- 少人数なので、意図的に語尾をはっきり伝えることを意識させたい。
- 話し合いは机を向き合わせて行った方が良い。

助言者より

- ・小学校の鑑賞のポイントとは？⇒指導要領では5・6年から有名作品を対象とすることになっている。
- ・どちらが国宝かという問いが本時の手立てとして必要だったか。どちらの作品が好きか聞いても良かった。
- ・どうしてそう思った？→個人内の思い ×
どこからそう思った？→何を見て判断したか ○ ⇒色々な見方を伝え合うことに繋がり、自分の考えを深め、さらに自分だけの見方ができるようなる。
- ・国宝について、子ども達がどこまでわかっていたのか。一般的な国宝の説明があった方が良かった。
- ・導入がスピーディーだった反面、もっとじっくり作品を見させたかった。
- ・作品を味わう上で必要な情報提供の仕方（サイズや作品の形態、屏風、掛け軸など）日本の文化を理解することにも繋がる。
- ・話し合いの場面になった時に、2人で1台の端末の絵を見て伝え合った方が理解しやすい。
- ・大型TVが2台あるのであればそれぞれのTVに1枚ずつ表示して、大きい画面で比較しながら話し合うものあり。指示棒があるとさらによい。
- ・話し合いの教師の関わり方が難しい。作品を観て楽しいな、他の人と一緒に見たら楽しいなと感じる関わり方を心掛けていく。